

麻生すこやか通信

VOL. 28

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2015年7月



第30回日本脊髄外科学会を終えて

院長 飛驒 一利

本年の6月25・26日に札幌市のかでる2・7で『日本脊髄外科学会 学術集会』を主催いたしました。日本脊髄外科学会の第1回は日本脊髄外科研究会として1986年7月6日に北大脳神経外科の先輩であり、当時北里大学教授の矢田賢三先生が東京で主催されております。以来30年が経過しておりますが、今回歴史の節目となる第30回の学術集会を開催したことは、大変光栄なことでした。

テーマは「脊髄外科 遥かなる頂き」としました。脊髄外科の治療は山登りの如く、十分な準備と訓練、さらに状況に応じた判断が要求されますが、頂きを極めるのは大変困難だからです。

今回、30周年特別企画として「日本脊髄外科学会の歩み」ということで、阿部弘先生、花北順哉先生、金彪先生に、脊髄外科学会の黎明期、発展、未来と課題について語っていただきました。

またシンポジウムでは、治療が困難な疾患を取り上げました。「脊髄髄内腫瘍の外科治療」、「頸椎OPLLの外科治療」、「頭蓋頸椎移行部の外科治療」、そして「骨粗鬆症にたいする治療」を取り上げ、現在の治療法の到達点について論じていただきました。また6つのランチョンセミナー、2つのイブニングセミナーでは海外からProf. Claes Olerud, Prof. Jung Keun Suh, Prof. Se Hoon Kim、さらに

国内からも多くの著名な先生方に来ていただき、興味深いトピックスについて話していただきました。なお当院からも矢野俊介先生がランチョンセミナーで、講師として慢性疼痛の話をしております。私自身は中でも金沢医科大学の名誉教授の富田勝郎先生の講演をとっても興味深く拝聴しました。彼は、転移性腫瘍に冒された際に、後方から腫瘍に冒された全て脊椎骨を取る手術(TES)を世界で初めて唱え、実践した先生ですが、まさに「鬼手仏心」といった内容で、私自身も脊椎脊髄の脊髄腫瘍あるいは脊髄血管障害といった難病を数多く治療していることもあり、共感を覚えながら聞き入った次第です。

今回の学会は演題の登録数が442演題、学会参加者は医師、コメデカル併せて700人以上と例年の会より100人ほど多く、内容についても記念大会に相応しい大変充実したと好評でした。

脳神経外科における脊髄脊椎疾患の比重は年々増しており、多くの脳神経外科医が指導医を目指し、訓練施設も年々増えております。

札幌麻生脳神経外科病院も私と矢野俊介先生が脊髄指導医であり、脊髄外科の教育訓練施設となっております。昨年、そして今年も道内外から多くの患者さんに来ていただいておりますが、今後もますます充実した施設にしていきたいと思っております。

市民公開講座

いつまでも元気であるために 痛みとしびれのお話し



第30回日本脊椎外科学会
が終了した翌日の6月27日
に、かでの2・7大会議室に
於いて、市民公開講座を開
催し、当院の飛驒一利院長
が座長を務めました。

講演 1

「MRIからわかる頸と腰の病気 診断と治療法」北海道大学脳神経外科 関 俊隆先生



MRI画像の読み方、手足のしびれの原因について、やさしく解説していただきました。「手足がしびれたら迷わず脳神経外科を受診してください。そして検査の結果、脳卒中でなくても、脳神経外科は頸や腰の病気も治療するので、継続して受診することが大事です。北海道大学病院脳神経外科も、札幌麻生脳神経外科病院も、予約がなくても受診することができます。」

講演 2

「つらい痛みに対する電気刺激療法」札幌麻生脳神経外科病院 矢野 俊介先生



古代ローマ時代にシビレエイを頭に載せている絵を見せ、慢性の難治性神経障害性疼痛の最新の電気刺激療法(SCS)について、説明してくれました。「①首、腰の手術後に手や足の痛みが残った②けがをしてから、手や足がいたく、赤く腫れている③帯状疱疹や糖尿病による神経痛④原因がわからない神経痛などでお悩みの方は、電気刺激療法の効果が期待できますので、札幌麻生脳神経外科病院を受診してください。」

講演 3

「手術をしない痛みへの最新の治療」北海道大学脳神経外科病院 笹森 徹先生



脳梗塞後の痙性による拘縮へのボツリヌス療法、痛みへの最近のお薬、さらに「痛みと心の問題」について、講演していただき、患者さん、ご家族も励まされました。「画像検査では異常がない『痛み』は周囲に理解されにくく、孤立し、うつ状態になってしまうことがあります。その痛みが続くと他のことが手につかなくなり、ますます孤立してしまいます。患者さんの心のケアも含めた治療が大事です。」

以上3名の先生方は、麻生脳神経外科での外来、手術にももちろん参加していただいています。

検 査 室

当院の検査室は、臨床検査技師が働いています。脳波、頸動脈エコー、神経伝導速度検査などの神経生理検査や心電図、呼吸機能検査、ABI、術中検査など患者さまの体に機械を当てて検査をするもの、血液や尿などを採取し分析するものなど内容の多い検査をしています。MRIやCT検査とは少し違い、検査技師が直接患者さまと対面し様子を見ながら行う、苦痛の少ない安全な検査が特徴です。患者さまの訴えを聞きながらコミュニケーションに気を付けて、安心と安全をモットーに検査しています。また手術室においても重要な役割を果たしています。術中MEPやSEPなどの神経機能モニタリング検査です。手術をより安全に管理するため、麻酔で眠っている患者さまの神経の様子を検査しながらドクターと連携して手術を進めています。また地域連携室と協力しながら他院からの検査依頼にも対応し、地域に貢献できる検査室として日々頑張っています。



脳波 脳の働きの調子を調べる検査です

頭皮上に小さなお皿のついた導線を20個ほど装着し、脳からでてくる微小な電気信号を読み取る検査です。脳の元気が無い部分は無いのか、また一部分だけ元気が良すぎても困りますので、全体の調子が整っているか検査します。

エコー おもに頸動脈のエコーを行います

動脈という血管は心臓から脳に大切な血液を送る水道管のような存在で、年齢と共に動脈硬化がおきてきます。動脈硬化症などにより血管の中が細くなってしまい、脳に大切な血液が行かなくなってしまう場合があります。重度の動脈硬化が見つかった場合は、手術をして細くなっている部分を取り除く場合があります。頸動脈も動脈硬化が起こりやすい場所ですので、直接エコーを当てて非侵襲的に血管内の様子を撮影し診断します。



ABI 足関節上腕血圧比

全身の血管のつまり具合や動脈硬化の程度を予測するため、両腕と両足の血圧を少し詳しく測る簡単な検査です。全身の血流の大体のバランスに偏りが無いかが調べます。



神経伝導速度検査(NCV)

手の先や足の先などに張り巡らされている末梢神経を主に調べる検査です。手足のしびれや動き辛さ、感覚が鈍いなどの症状の原因が末梢神経にないか調べます。小さな電流を流すことで神経を刺激し、きちんと伝わっているか伝わりが遅くなったり弱くなったりしていないか微少な変化を感知する検査です。小さな電気を当てる少し痛みを伴う検査ですが、症状の原因を調べる上で重要な検査です。



心電図 心臓の調子を診る検査です

心臓の周りに吸盤を張り心臓の筋肉から出てくる信号を読み取る5分程度の検査です。脳も心臓から血液をもらっていますので、心臓の調子が崩れると脳にも影響が出る場合があります。心臓が原因で脳の病気がおこる場合もありますので簡単ですが重要な検査です。

術中MEP SEP ABR

手術室においても重要な役割を果たす術中MEPやSEP、ABRなどの神経機能モニタリング検査です。手術をより安全に管理するため、麻酔で眠っている患者さまの神経の様子を検査しながらドクターと連携して手術を進め、神経の危険を未然に感知するモニタリングです。

こんにちは。昨年10月から勤務しております、高宮宗一郎です。始めの頃は慣れない環境に戸惑いもありましたが、スタッフの皆さんに支えられ、患者さんに逆に助けられながら、少しずつ馴染んできました。当院の手術はレベルが高く、わたし自身の勉強にもなりますし、看護・リハビリ体制も充実しているので安心して診療にあたる事ができています。若輩者ですが今後もよろしくお願い致します。

北海道出身。札幌北高校卒。2012年北海道大学医学部卒。
2012年4月より帯広厚生病院勤務。2013年4月より北海道大学病院勤務。
(6～8月砂川市立病院勤務) 2014年10月より当院勤務。



医師 高宮 宗一郎

ドクター
ご紹介



医師 重川 誠二

本年4月より当院で脊椎・脊髄疾患のスペシャリストを目指して診療に励んでおります。私は九州と四国でしか生活したことがなく、北海道は縁もゆかりもない土地でしたが、院長先生をはじめ、職員の皆様に温かく迎えられ毎日楽しく仕事をさせていただいております。また、大好きな美味しいものも沢山堪能し、毎日がデパ地下の北海道フェアにいる気分でワクワクしております。これ以上体重を増やさないように頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

愛媛県出身。1995年福岡大学医学部卒。同大学脳神経外科入局。2001年同大学大学院博士課程で学位取得。2005年熊本セントラル病院脳神経外科医長、2008年福岡大学附属病院脳神経外科外来医長を歴任。2011年より愛媛大学附属病院脳神経外科助教、2014年大洲中央病院脳神経外科科長を経て2015年4月より当院勤務。
【認定医・専門医】日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳卒中学会専門医

お知らせ

平成27年7月より、神経内科外来は休止させていただきます。

編集後記

当院は、1階ロビーの喫茶コーナーに、投書の回答を掲示しています。お褒めの言葉、お叱り、ご意見など、多種多様な投書が寄せられます。患者さま一人ひとりの心の中に思いを馳せ、毎月、院内の専門機関で議論しています。厳しいご意見を頂く事もありますが、でもそれが札幌麻生脳神経外科病院をより良くするものと信じています。We never give up! 患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 33 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札幌線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札幌線
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。